

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	272300864		
法人名	社会福祉法人千栄会		
事業所名	グループホームさんふじ		
所在地 (電話番号)	〒038-3837 青森県南津軽郡藤崎町柏木堰亀田67-1 (電話) 0172-75-3511		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 19年 9月 29日	評価確定日	平成 19年 11月 30日

【情報提供票より】(平成 19年 8月 31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年 12月 10日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤	13 人, 非常勤 人, 常勤換算 11 人

(2) 建物概要

建物構造	コンクリート造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	8,400 ~ 冬季14,400 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		780円

(4) 利用者の概要(8月 31日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名		
要介護3	10 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	65 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人せきばクリニック(内科)・西とよだ歯科
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>利用者に合わせたゆったりとした時間が流れており、特に食事の時間はそれぞれのペースに合わせ、食べ終わってもゆっくりとお茶やコーヒーを飲んだりと落ち着いた雰囲気である。職員の学習意欲が高く、毎月様々な設定で勉強会を開いている。また、事業所内だけでなく地域のために役場の事業の委員会にも参加され、入居者と地域のために貢献されている。個人情報保護のために書類等は厳重に保管されているが、家族等必要ならばいつでも閲覧できる対応をしている。入居者・家族に対して接遇マニュアルを作成し、十分な対応がされている。</p>

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価では理念の具体化及び共有、入居者一人ひとりの尊重、鍵をかけない工夫が改善課題となっていた。理念は全職員で話し合っており、独自の理念をつくり共有するようにしている。そして利用者の尊重のため、言葉遣いについて検討している。また鍵をかけない工夫も行っており、時間を決めて施錠するようにし、職員の多い時間は開錠するようにしている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は全職員で取り組み、評価結果を再度見直して改善に努めている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議では事業所の評価や報告を行い、家族や地域、町からの意見を基に話し合いをしている。町会との協力体制を充実させること、家族会の発足等が課題として上がっており、現在検討中である。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>意見箱設置や家族に無記名アンケートを送り意見等を得る努力をしている。家族の意見を受け止め、運営者との話し合いで反映している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>住宅地から離れているため、近隣の住民と日常的に付き合うのは難しいが、町内の行事に参加したり、ボランティアを受け入れたりしている。併設の通所サービスへ利用者の友達が来るので、自由に行き来できるようにして交流をはかっている。</p>

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で話し合い、家庭的な環境の下で入居者が安心して暮らせ、なおかつ尊厳を守る理念になっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホール内等に掲示し、いつでも見られるようになっており、管理者と職員は理念を理解し入居者に支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	住宅地から離れており、住民に寄ってもらうようなことが難しい面があるが、町内の行事に出向いたり、ボランティアを受け入れたり、プライバシーを守りながら通所サービス利用の昔ながらの友達と交流している。また、婦人会との交流もある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>事業所全体が評価により良くしていこうという意欲があり、自己評価も全員で意見を出し合い、結果を再度見直して改善に努めている。外部評価についても同じように取り組んでいる。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>出席者に対して忙しいなか参加していただけるよう呼びかけ、運営推進会議を開催している。事業所の評価や報告を行い、家族や地域、町からの意見を基に話し合いをして、サービスの向上に役立っている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>職員が町役場の委員会(虐待防止等)の構成員になっている。構成員には医師や役場職員、福祉関係者と幅広いジャンルの人が集まり、課題に取り組んでおり、事業所のサービス向上にも役立っている。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>地域福祉権利擁護事業や成年後見制度を理解しているが、学ぶ機会は設けていない。</p>		<p>必要時に活用や情報提供ができるように、全職員が学ぶ機会を持つことに期待したい。</p>
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>法人内に虐待防止についての委員会があり、職員の意識が高い。管理者も虐待が見過ごされないように注意を払っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>事業所は契約を結ぶ段階で、退居するまでの説明を行っている。また、その都度疑問等があれば対応している。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>3ヶ月に1回定期的に出納帳と広報、写真などを送付している。以前は暮らしぶりについての報告もされていたが、最近はされていない。</p>		<p>以前同様、入居者の暮らしぶりについても便りなどを家族へ送付されることを期待したい。</p>
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の意見や不満、苦情を反映させるために、ご意見箱の設置や、無記名でアンケート調査するなど努めている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>入居者に与えるダメージを十分に理解しており、異動は最小限に抑えている。離職により代わる場合は、前もって顔を出す機会を持ち、だんだんと馴染んでいけるように取り組んでいる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じて外部研修に参加させている。内部の研修もありスキルアップに努めている。また法人内に委員会を設け、自ら学ぶ大切さも理解している。		
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修には年5回、10人程参加して意見交換するようにしているが、地域の同業者と交流する機会がない。		同業者との交流や意見交換できる機会を作り、サービス向上に努めることを期待したい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事業者は認知症が環境の変化によるダメージを十分に理解しており、地域密着を大事にしている。入居者は、併設施設の通所サービスや短期入所サービスを利用していた方が多い。サービス利用前から家族とも相談しながら馴染んでもらうようにホームと交流を図っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に洗濯物たたみや食事の盛り付け、後片付けをしてもらったり、入居者の人生について話してもらう機会を設けたりして、共に支え合う関係を築いている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から生活歴を聴き、独自のアセスメントシートにまとめ、職員間で共有し、暮らし方の把握に努めている。利用者との会議を月一回開き、食べ物や外出について意向を伺っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人と面会時や電話連絡にて家族から意見を聴き、職員全員でケア会議にて話し合い、入居者に合った計画書作成に取り組んでいる。		
19	34	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に計画書を見直している。また状態の変化があったり、計画に対応できなくなった場合にも見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業開始して3年経っていないため共用型認知症対応型通所介護・短期利用共同生活介護はできないが、今後やっていこうとする意思はある。他に本人や家族の状況や要望により、病院受診やマッサージのサービスを提供している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望を第一にしている。希望がない場合は、協力医や状態に合った医院を紹介し、同意をもらって支援している。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に家族と話し合い、重度化や終末期について方針を定めている。利用者が重度化してもできる限り対応する意向である。終末期ケアの前例はないが対応することはできる。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員が入居者に対して接遇マニュアルを作成し、それに沿って対応して入居者の尊厳を守っている。また個人情報となる書類は棚に整頓されており、鍵を掛けている。必要時にはすぐ取り出せる対応もできている。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念のとおり急がせず、ゆっくりと入居者のペースに合わせた対応がされており、希望についても入居者と話し合い、要望に沿うように支援している。起床・就寝のペースも本人に任せている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の状態や好みに合わせた対応がされており、職員と一緒に食事し、さりげなく入居者のサポートをしている。食後すぐに立ち歩く入居者もなく、落ち着いて食事されており、食事中笑顔が見られている。準備や片付けも入居者と一緒にされている。		
26	54	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日に関係なく毎日入浴でき、朝から夕方まで好きな時間に入浴できるように職員配置がされている。また、希望に応じて併設施設の大浴場に入浴することもできる。好みで入浴剤を使っている方もいる。羞恥心へ配慮して、男性職員は入浴介助しないようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時に本人、家族から生活歴の情報を聴きだし把握されている。入居者個々に応じて声かけして楽しんでいただけるよう支援をしている。それによって今では、入居者からの希望の声が出ている。		
28	58	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム内に閉じこもらず、併設施設に自由に行き来され、通所サービス利用の友人と交流したりしている。また畑や買い物などの外出支援をしている。ちょっとした散歩にも職員が付き添って出るようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内に身体拘束委員会があり、メンバーには医師も入っている。委員会の内容は全職員に報告して周知、理解されるようにしている。また身体拘束をしないための工夫もされている。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び職員は鍵を掛ける弊害を理解しているが、徘徊者への対応として玄関に鍵を掛けている。今年から職員配置の多い11:00～13:00は鍵を開けている。職員は日中鍵を掛けないケアのために検討している。		職員全員で話し合わせ、徐々に改善されている。今後も検討しながら改善されることを期待したい。
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回施設全体で消防署立会いの下で避難訓練を行っており、併設事業所の協力も得られる体制ができている。非常用の食料・備品も用意している。		災害時に施設職員と消防署員だけでなく、地域の人達の協力を求めてみてはどうか。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本となる栄養や水分量などは、併設施設の管理栄養士から情報を得ている。記録については、基準より変化があった場合に記録している。利用者の食事の好みを把握しており、それに合わせて代替のおかずを提供している。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対するマニュアルを作成し、それに沿った対応はされているが、内容を更新する機会がない。		定期的に新しい知識や予防法を取り入れ、今のマニュアルを振り返り、更新する機会を期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間には過度の音などなく、光も調整されている。また季節感が分かるように季節に合った空間作りをしている。居間には座って食事をする利用者のために畳を用意している。廊下などのスペースの適所に椅子が設置されている。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>部屋は本人と家族の希望に任せている。何でも受け入れる体制になっている。希望に応じて和室、洋室を選ぶことができる。</p>		

 は、重点項目。